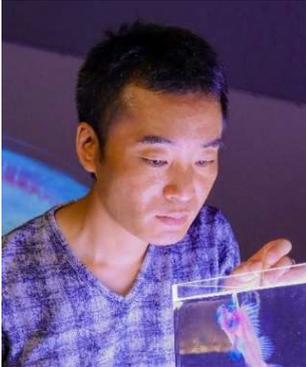


1983(昭和 58)年～

## 1. 経歴・狭山市との関わり



狭山市出身。狭山市立富士見小学校、同東中学校を卒業。幼い頃から父親に入間川などに釣りや生きもの採集によく連れて行ってもらった。狭山の豊かな自然が「生きものが好き」という気持ちを育ててくれたという。

北里大学水産学部水産生物科学科（岩手県大船渡市）に進み、在学中に学術研究用の透明二重染色標本に魅せられ、独自に制作を開始する。

卒業後上京し、一般企業に就職したが、海や自然に身を置きたいと岩手県に戻り、漁師見習いをしながら、研究用の標本とは次元の異なる「生きものの美しさを追求した透明標本」の制作を模索する。2008年5月、25歳の時、デザインフェスタに初出展すると、その独特の世界観で一躍脚光を浴び、「透明標本作家」として活動することとなった。現在、展覧会をはじめ、各種メディア、講演会など、国内外で注目を集め活躍中である。また、狭山市使用の小・中学校理科教科書、5年生「わくわく理科」（新興出版啓林館）、中学1年生「新しい科学」（東京書籍）にも掲載されている。神奈川県葉山町在住。

## 2. 主な業績

- ①展示出展 アメリカ紀伊國屋書店ニューヨーク本店（2010）や「アルス・エレクトロニカ」（リンツ 2013）、国際見本市「プルミエール・ヴィジョン」（パリ 2012）、メルセデスベンツ・ファッションウィーク東京（渋谷 HIKARIE 2012）など、時代を牽引するフィールドで広く紹介されている。
- ②展覧会 2014年の群馬県立館林美術館（特別展）をはじめ、国内外で多数開催されている。「富田伊織 新世界『透明標本』展」としては、2017年に高知県立美術館（第一回）、2022年には狭山市立博物館（秋季企画展）、2024年秋には金沢 21 世紀美術館（第七回）において開催された。
- ③その他 科学雑誌『ニュートン』やイギリスの先進的雑誌『Wired UK』（2011）、英語版図鑑『The SCIENCE of ANIMALS : Inside their Secret World』（2019 DK 社）など、掲載された雑誌や書籍多数。また、国内外の映像メディアにも多く紹介されている。

## 3. 特筆

透明標本は、魚類や爬虫類などの特に小動物を特殊な薬品や酵素によって、筋肉などを透明化し、硬骨を赤紫色、軟骨を青色に染色する。富田は、透明度を高めるため、制作に半年以上の時間をかける。「透明標本によって外からは見えない生きものの生きざまが見え、人間の手の届かない自然の神秘に凄さと美しさを感じる」と言う。「作品は自分にとって生物そのもの。今後も大好きな生きもの世界に身を置き、様々なことに挑戦していきたい」と展望を語った。



(クロウミウマの透明標本)

〈インタビュー〉 富田伊織氏

〈参考文献〉写真集『新世界[透明標本] -New World “Transparent Specimens” -』I. II (2009・2014 小学館)

『透明な沈黙 ウィトゲンシュタインの言葉×新世界[透明標本]』（2010 青志社）

富田伊織公式ホームページ 新世界『透明標本』・狭山市広報さやま 2022 10 月号

狭山市文化団体連合会「狭山の文化人を知ろう」プロジェクト

文責・荒川 和子 2025. 2